

2017年4月2日(日)朝10:10

主の復活前第2、オリーブ会等

4月第1聖餐総員共同主日礼拝式説教

日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**第7の封印について、  
竜礼拝との戦い**

聖書:ヨハネの黙示録 13章11～18節

＜口語訳＞

新約聖書399頁

ヨハネの黙示録 13章11～18節

＜新共同訳＞

新約聖書467頁

ヨハネの黙示録 13章11～18節

＜新改訳第3版＞

新約聖書490～491頁

ヨハネの黙示録13章11～18節

＜塚本訳＞

新約聖書804～805頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
  - ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰と神の御子の愛、2章～3章は、7つのアジアの教会への手紙、4～5章は、仔羊(羔羊)礼拝と天の大讚美、6～9章は、巻物開封、聖徒の戦い、10章は、神の恵みの啓示と審判、11章は、主の王即位と24人の長老の神礼拝、12章は、女性及び天使ミカエルと龍(悪魔・サタン)との戦い、13章1～10節は、龍(悪魔・サタン)礼拝を求める第一の獣との戦いの箇所です。
  - ◇ヨハネの黙示録13章11～18節は、第一の獣礼拝を求める第二の獣との戦いです。
- ⇒ある人は、父なる神、子なる神、聖霊なる神の三位一体に似せた龍(悪魔・サタン)、第一の獣、第二の獣の三位一体の悪業といます。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第13章11～18節から  
主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録13章11～15節；ヨハネは、第一の  
獣礼拝を求める第二の獣の偽預言者との  
戦いを啓示されました。

◇11～18節；塚本訳◆第一の獣の補助者  
なる第二の獣

「11 また私はもう一つ(他)の獣が地から  
上って来るのを見た。それには仔羊に似た  
二つの角があって、竜のように語った。

12 そして第一の獣の(有つ)凡ての権力を彼  
(に代わってそ)の前に行い、地とそこに  
住む者とをして、致命の傷を癒された  
(かの)第一の獣を拝ませる。

13 彼は(驚くべき)大きな徴をする——天  
から火を(呼び、)地に、人々の(目の)前に  
降らせる(ようなことをする)。

14 また(第一の)獣の前で行うことを許され  
た(種々の)徴によって、地に住む者を  
惑わし、剣の傷を受けて(死んだようになり、  
再び)生き(返っ)た(かの)獣(を崇めるため

に、そ)の像を作るように地に住む者に言う。  
15 且つ彼はその獣の(生命の)息を吹き  
入れて獣の像に口を利かせ、また獣の像を  
拝まない者をば誰でも殺すことを許された」  
と、ヨハネは、**第一の獣礼拝**を強要する  
**第二の獣**の神なき生活を啓示されました。

◇11～12節；ヨハネは、「**2つの角を持つ小羊**  
に似た獣が地から上って来た。第一の獣の  
権威を与えられ、地に住む人々に**第二の獣**  
礼拝を求めた」幻を見ました。

⇒「**第二の獣**」は、**第一の獣の権威・政治力**を  
受け、「**地に住む人々に第二の獣礼拝を求め**  
**た**」のです。

⇒「**第二の獣**」は、ヨハネの黙示録16:13など  
から「**偽預言者**」と、理解されています。

⇒「**神の預言者**」は、人々を**神礼拝**へ導きます  
が、「**偽預言者**」は、人々を**神礼拝**から遠ざけ  
ます。

◇13～15節；「**大きな徴をする——天から火**  
**を(呼び、)地に、人々の(目の)前に降らせ**」、  
「**地に住む者を惑わし、剣の傷を受けて(死ん**  
**だようになり、再び)生き(返っ)た(かの)獣(を**

崇めるために、その像を作るように地に住む者に言「い、「**獣の(生命の)息を吹き入れて獣の像に口を利かせ、また獣の像を拝まない者をば誰でも殺すことを許された**」と、ヨハネは、「**第二の獣**」の不思議を行う力と**第一の獣の像を礼拝しない者を死に追いやる姿**をヨハネは見ました。

⇒「**第二の獣**」は、**天から火をくだす**奇蹟により「**地に住む者**」に「**第一の獣**」の権威を示し、「**第一の獣**」の像を作らせ、「**第一の獣**」の像を礼拝させるのです。

⇒**バビロン王ネブカデネザルの像礼拝**から**ローマ皇帝礼拝**に至る歴史の事実を連想させます。

⇒「**ドミティアヌス皇帝**」も、**皇帝礼拝**を求め、**ヨハネたち教会の人々**を苦しめました。

⇒「**第二の獣**」は、「**第一の獣の政治力**」を利用して、今日の時代にも働いています。しかも、その誘惑は、「**神の教会**」に深く入り込んでいるのです。**神礼拝**よりも**人間崇拜**へと人々を洗脳する教え、哲学が蔓延しています。

⇒**神の知恵あることば**に聴くことが大事です。

◆ 黙示録13章16～18節 ; ヨハネは、**第二の獣**が**第一の獣**の刻印を人々の額や右手に押し、**経済を支配するのを啓示**されました。

◇ 11～18節 ; 塚本訳 ◆ **第一の獣の補助者なる第二の獣**

「16 そして小さい者も大きい者も、金持ちも貧乏人も、自由人も奴隷も、悉くその右手かあるいは額に印をつけさせ、

17 【そして】その獣の印かあるいはその(獣の)名の数をつけている者でなければ売買が出来ないようにする。

18 ここに知恵が(蔵されて)ある。理知ある者は(この)獣の数をかぞえよ。それは人間の数である。(人の名である。)そして(その人の名を数うれば、)その数は六百六十六！」と、ヨハネは、**第二の獣**が人々の経済生活を**支配するのを啓示**されました。

◇ 16～18節 ; ヨハネは、「**小さい者も大きい者も、金持ちも 貧乏人も、自由人も奴隷も、悉くその右手かあるいは額に印をつけさせ**」、「**獣の印かあるいはその(獣の)名の数をつけている者でなければ売買が出来ないように**

- する」、「人間の数は六百六十六！」と、「**第二の獣**」が、「**第一の獣の政治力**」を使って、人々の経済生活を支配する幻を啓示された。
- ⇒「**人間の数は六百六十六！**」は、色々の理解があつて、確定できていませんが、**666**を**ネロ皇帝**と想定し、ヘブル文字表示から数値計算するものがあります。
- ⇒基本的には、人間中心に物事を考えることを象徴させるものと理解するのが最善です。
- ⇒「**第二の獣・偽預言者**」は、「**龍(悪魔・サタン)**や**第二の獣**」の**政治力**、や**人間力・哲学・宗教**を使って、**神礼拝する人々**を**神**から引き離そうと知恵と脅しを行うのです。
- ⇒これに勝利する方法は、**神礼拝堅持**以外には、何も人間に与えられていません。
- ⇒「**第二の獣**」は、「**龍(悪魔・サタン)**」や「**第一の獣**」の**権力・支配力**によって、「**人間の死**」さえも用いて、**神礼拝に生きる絶望感**を心に抱かせようとするのです。
- ⇒「**龍(悪魔・サタン)**」、「**第一の獣**」、「**第二の獣**」が最も嫌うのは、「**神信仰と忍耐**」(13:10)であり、**神を喜ぶ讚美**なのです。

## 結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
  - ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
  - ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰と神の御子の愛、2章～3章は、7つのアジアの教会への手紙、4～5章は、仔羊(羔羊)礼拝と天の大讚美、6～9章は、巻物開封、聖徒の戦い、10章は、神の恵みの啓示と審判、11章は、主の王即位と24人の長老の神礼拝、12章は、女性及び天使ミカエルと龍(悪魔・サタン)との戦い、13章1～10節は、龍(悪魔・サタン)礼拝を求める第一の獣との戦いの箇所です。
  - ◇ヨハネの黙示録13章11～18節は、第一の獣礼拝を求める第二の獣との戦いです。
- ⇒「神の栄光の御座」での「24人の長老」と「4つの生き物」の神礼拝・神讚美は、「主



キリスト・イエス様が天のみならず、地の上・この世でも、**王となり給うたことを感謝**」する結末を与えられています。

⇒地上に今生かされています私たちも、「**神礼拝・神讚美**」は、この幻のように実現することを信じて、「**主がこの世の王となり給うたことを感謝**」すると、告白しています。

⇒「**死**」という最大の苦難を思う前に、「**恵みの約束の神**」に思いを向けたいと、願います。

⇒ヨハネ黙示録は、「**苦難**」先にある「**神の救い**」という「**神の恵み**」を見せ、また指し示します。

⇒「**龍(悪魔・サタン)**」は、「**神のようになる**」目的を放棄していませんで、「**天では**」、「**彼らの(いる)場所が無くなった**」のですが、投げ落とされた地上で、「**神礼拝者・神信仰者**」を「**訴える本務**」を放棄することはしません。

⇒「**龍(悪魔・サタン)**」は、部下の「**第一の獣**」を呼び出し、**神礼拝者のいのち**を狙います。

⇒**龍(悪魔・サタン)**の働く期間も、1260日、3年半と制限されていましたが、**第一の獣**、**第二の獣**の働きも、42か月・3年半と制限されています。

- ⇒神が「龍(悪魔・サタン)」、「**第一の獣**」、「**第二の獣**」に既に勝利して下さっていますが、その結果は、今の時代においては、**神信仰**によって受け入れる方法のみ知るように**神**は備えておられるのです。
- ⇒**龍(悪魔・サタン)**が、支配するこの世は、荒野ですから、**神の聖徒**には、苦難を回避できないため、「**忍耐と神信仰**」(13:10)が求められたと同様、**第一の獣の政治的迫害**に対しても、「**神信仰と忍耐**」がもとめられます。
- ⇒「**神礼拝**」に生きるために、「**日々心を神に**」向け、「**常に喜べ、絶え間なく祈れ、(幸不幸、)何事についても(神に)感謝せよ。**これ(ら三つ)は神がキリスト・イエスに於て君達に求め給うものである。」のみことばを、繰り返し、繰り返し口にして、祈りましょう。
- ⇒**神への敬虔の訓練・日々のアシュラム・静聴の訓練**は、必ず**結実**します。
- ⇒**神**は人々の長い祈りに答えて、**神の御子**を人として私たちの住む世界に送り、また、**神礼拝**に生きるために、「**神の聖霊**」をひとりひとりの心に**内住**させて下さったのですから。